

10/1



松江市立中央図書館リニューアルオープン！



ぜひご来館
ください



〈松江市立図書館〉
ホームページ



松江まちかど ダイアリー

10/1



防災フェスタinヨリアイーナ東出雲



今年6月にオープンしたヨリアイーナ東出雲で防災フェスタが行われました。消防車両や警察車両の展示をはじめ、子どもも体験できる防災イベントにたくさんの親子が参加し、賑わいました。

市報 松江 目次

- 02 令和4年度の松江市の家計簿(決算)をお知らせします
- 04 松江まちかどダイアリー
- 05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」町自連だより
- 06 国際交差点/シリーズ松江の文化力×未来
- 07 松江の皆さんこんにちは。/マイレポート
- 08 令和6年度 認可保育所・認定こども園・幼稚園などの入所・入園募集が始まります
- 09 自覚症状のないあなたこそ「がん検診」/11月14日は「世界糖尿病デー」
- 10 オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン
- 11 11月12日~25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です/ひきこもりVOICE STATION全国キャラバン
- 12 第15回全国水源の里シンポジウム
- 13 土砂災害警戒区域を調査します
- 14 令和4年度 市の財布の中身を公開します
- 18 原発立地に伴う交付金の使い道
- 19 令和4年度 ふるさとづくり寄附の活用事業報告
- 20 子育て・健康・福祉
- 22 マイナンバーカードだより/情報ひろば
- 29 でかけてごしない~イベント情報~

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。
QRコードを読み取って、
空メールを送ってください。



商標について:QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

松江市長 上定 昭仁の

上を向いていこう



Vol.28

「11月19日は『子育ての日』です」
(^-^)

語呂合わせで「いい育児の日」の11月19日(日)を、松江市の「子育ての日」と定めて、今年初めて「子育ての日ファミリーイベント」を開催します！

会場は、松江市役所と市役所に隣接する末次公園、そして松江市総合体育館。合わせて、島根県民会館でも民間団体による親子向けイベントが開催され、親子で参加できる催しが盛りだくさんです。

まず、松江市役所と末次公園では、「どろぼうつふれあいコーナー」、体力測定「ミライキッズ・プロジェクト」、音楽ライブ、大道芸、謎解きクイズラリー「親子で挑戦! まつえ仙人からの挑戦状」などなど。当日は、NHK「おかあさんといっしょ」の体操のお兄さん・佐藤弘道さんをお迎えする予定です。

一方、松江市総合体育館では、およそ40種類のお仕事体験ができる「おしごと体験KIDSフェス」、「働くくるま」約20台の展示、子育てをテーマにした講演会の開催など、興味深く楽しめる企画が目白押しです。

島根県民会館では、地元で活躍するアーティストやパフォーマー、子育て支援団体、大学などが集まり、こどものためのアートプログラム「子どもアートDay」が開催

されます。

さらに、「子育ての日」の前の週11月12日(日)～18日(土)を「子育ての日キャンペーン週間」として、島根県や商工会議所と連携して、ノー残業デー、ノー残業ウィークを設けるほか、家事の「分担」や「交換」を促進する取り組みを実施します。

松江市は、こどもたちの考えを尊重する「#こどもまんなか松江」の実現に向けて、こども・子育てを力強く応援してまいります。「子育ての日」をみんなで楽しみましょう！



〈R5.6.12「こどもまんなか応援サポーター」宣言時の城西幼保園のみなさんと上定市長〉

宣言の様子は
こちら↓



〈市公式
YouTube〉

町自連だより

住民交流の場

「しらかたしじみサロン」

白潟地区町内会連合会
会長 景山 弘一

この夏は懐かしい土曜夜市が復活、天神神輿も4年ぶりに繰り出し、宍道湖畔では水辺のイベントが開かれるなど中心市街地白潟地区も久しぶりに活気にあふれ、賑わいが戻って来ました。

白潟地区社会福祉協議会が中心となつて、高齢者が集まってくつろげる場として、毎月第二水曜日、公民館を会場に「しらかたしじみサロン」(☑)やべつて(☑)やん(☑)じゃん(☑)んなで(☑)楽しく(☑)を開催しています。「ワンコイン(百円)野菜市」、移動図書館、保健師による健康相談、市社協の福祉なんでも相談、みんなと一緒に歌う「しらかたのうたごえ」、「おもてなし喫茶」、白潟保育所の子どもたちの歌や踊りを楽しんで貰っています。

地域の皆さんがお互いに顔を合わせ、言葉を交わす貴重な機会となっています。



〈野菜市の様子〉

国際交差点

夜空ノムコウ 〜松江と世界とちっぽけな勇氣〜

永瀬 光 (玉湯町出身、現JICAキルギス事務所勤務)

みなさんこんにちは！

JICA海外協力隊員として松江からケニアに旅立ったのは2013年、あれから10年が経ち今僕は中央アジア、シルクロード上にあるキルギス共和国にいます。日本から遠く離れたこの国で、JICAボランティア事業のコーディネーターとして働きながら、近い将来島根に戻るため力をためています。島根には、何も無い、と思っていた学生時代、地元を飛び出し遠く離れて今、改めて島根の良さ、ないものはない、ことに気づかれます。

国際協力なんて興味のなかった僕が協力隊に参加したきっかけは、2011年に起きた東日本大震災。当時の僕は雲南の交番に勤務する警察官でした。発災当時、管轄の農家さん宅でお茶をごちそうになっていた僕は、生中継の映像にくぎ付けになりました。しばらくして宮城県に派遣され現場を直接目にした時の衝撃は今も忘れられません。被災地派遣後も何度か休暇を取って現地ボランティア活動に参加。そして、世界の人々から受けた多くの支援

を知り、日本人として恩返しをしないと、いてもたってもいられず協力隊に応募。生活インフラも整わないケニアの田舎に派遣されることになりました。

ケニアでは、農業省の地方事務所まで農業技術の普及に励みつつ、現地の農家さんと一緒に毎日畑に出て土にまみれる日々を過ごしました。派遣を終えてからは、日本で派遣前の青年海外協力隊員たちの訓練業務に携わり、ベトナム事務所勤務を経て今に至ります。

当時、仕事を辞めることに不安がなかったとは言えませんが、でも、さんざん考えて、いと思つた道を進むことに迷いはありませんでした。日本中から集まってきた協力隊の仲間たち、ケニアの田舎で出会った人々、ベトナム・キルギス事務所まで受け入れた隊員たちと事務所と一緒に働き、苦楽を共にした現地職員たち。新たな土地で、初めて出会った人々と取り組んだこれまででよかったことのない仕事と困難。松江を離れてから今まで起きたすべてのことが、僕の好奇心・冒険心を刺激し、

vol.43



初めての環境、仕事でのサバイバル能力を磨き、いつどこにいても、何でもやってやるぞ、という勇氣に繋がっています。

松江もキルギスも、同じ空の下、夜空ノムコウには新しい明日が待っていて、どんな困難があっても前に進むしかない僕たちの背中を押すのは、根拠のない、ちっぽけな勇氣。一度きりの人生、ちよつとだけ冒険してみませんか？



こんなところにしまねっこ (キルギスの首都ビシュケク)

キルギスの秘境
ソングル湖畔にて
(家族と)



ケニアの田舎にて

*JICA海外協力隊の募集を24ページに掲載しています。

シリーズ「松江の文化力×未来」

松江の文化力の次世代を担う人をご紹介します！

Vol.10



わたなべ こうき
渡部 幸基

松江市出身、宍道町在住。宍道鼓動芸術祭実行委員会統括ディレクター。市内で勤務をしながら地元である宍道町を盛り上げようと「宍道鼓動芸術祭」を企画。以降コアメンバーとして活動中。

宍道の魅力を発掘・発信する

これまで携わってきた地域活動の中で、人をサポートする立場に立つことが多かった私が、「渡部さんが一番したいことは何？」と聞かれたことをきっかけに、一晩で企画書を書き上げたことから生まれたのが、宍道鼓動芸術祭です。

宍道町には宍道湖の美しい景色や文化・史跡、祭や芸能など、良いものやユニークなものが多いです。

私は以前からそんな宍道町が持っている魅力をより多くの人に伝えたいと思っていました。

宍道鼓動芸術祭では、10月28日のオープニングセレモニーを皮切りに、12月3日までの期間、宍道町を3つのエリアに分けて、町の魅力を誰でも触れやすい「アート」と紐づけ、発信しています。

各エリアでは、宍道町の文化を担ってこられた人を被写体とした写真展「まなざし」や、町中で絵本の一部になれる写真スポット「まてまてほろし」など、さまざまなアート作品を準備しています。

また、コアセンター(総合案内所)となるギャラリィCでは、ワークショップを開催

し、大人も子どもも楽しめる内容となっています。

私は、この芸術祭を永く地域の人に愛されるイベントにしたいと思っています。この実現のために、地域の人に受け入れてもらえるよう、丁寧な説明や納得していただける作品選びなどに力を入れてきました。時には難しさを感じることもありましたが、良い経験ともなっています。

今後は、4年ごとの開催を考えており、継続して宍道町の魅力を発掘し、磨いていきたいです。そしてこの芸術祭が、関わる人々の4年間の集大成となる場として定着し、宍道町の活気が増すことをめざしていきます。



(イベントHP)



イベントのチラシ

松江の皆さん こんにちは。



と人
ひろ洋
きし岸

島大付属中、松江南高から早大政経学部に進学。1972年、読売新聞東京本社入社。社会部、論説委員、人事部長、北陸支社長を経て2009年、報知新聞社社長。現在は東京松江会副会長



私は、駆け出し時代を読売新聞静岡支局で過ごした。もう半世紀も前のことである。その当時の先輩、同僚十人余りが、こぞって松江にやってきたことがある。皆が退職したのを機に始めた、シルバーツアーの旅先に、松江を選んでくれたのだ。

八重垣神社―松江城―歴史館―堀川めぐり。

ひとしきり観光を終えた宍道湖畔で、長野県上田市出身のM氏がぼつりと言った。

「(上田と)あまり人口は変わらないのに、松江の方がずっと都会に見えるなあ。」

上田は、ご存知真田氏の居城があった由緒ある城下町。その上田より松江の方が都会的、洗練されているとは嬉しいではないか。

松江が県庁所在地ということもあるが、何といても宍道湖、中海、堀川と、街を彩る「水辺の景観」が、他の城下町にはない風情と落ち着き

をもたらししているのだ、と思う。

葦の生い茂る湿地帯に、よくぞ城を構えてくれたと、堀尾吉晴公に改めて敬意を表したい。その後の町作りは、松江大橋を中心に南北に延びていった様子が見て取れる。

私が子供の頃は、町の背骨、ともいえる堅町―天神町―白濁本町と続く通りは、大小様々な商店が軒を連ねる賑やかなショッピングロードだった。その商店街も、全国の地方都市同様に空洞化が進む。勿体ないと思う。なにせ、通りのすぐそばには、宍道湖の眺望が広がっているのだから。

実は、私には夢がある。宍道湖に面して大きな「お祭り広場」を作るのだ。四季折々の湖面の表情に合わせて様々なイベントが繰り広げられる……。と、ここで紙数が尽きた。妄想の続きは、一杯やりながら語りたい。

「東京松江会」への入会者を募集しています。関東地方在住の人をご紹介いただける人はご連絡ください。
〒140-0001 品川区北品川1-1-16 第2小池ビル6階 様さんびる内 東京松江会事務局
☎090-1188-0776 (幹事長 境 真樹) ✉tokyomatsuekai@gmail.com 東京松江会ホームページ→

まちをよくする マイルレポート

「島根半島のジオパークに宿る神々」

神社ガールズ研究会 会長 河野 美知

神社ガールズ研究会は2011年に結成し、地域の伝統伝承、神話などを学んでいます。現在の会員は約50人で、これまでに600力以上の神社や史跡を訪ね、地域の役割や魅力などをレポートしてきました。

現在、メンバーで力を入れているのが島根半島・宍道湖中海ジオパークの「認定ジオガイド」としての活動です。「ジオガイド」は大地や地形の成り立ち・形状・地質などをもとにその地の特徴や人の営み、文化などを紹介する役目なのですが、なぜ社ガールでジオガイドなのか。その理由は、この地域のダイナミックな大地の形状と神々への信仰が密接に繋がっているからです。

ジオサイトの一つである美保関町の惣津浦は海岸線に黒くのっぺりとした



た波食棚が広がり訪れた人を魅了します。この黒い地層は1700万年前に深海に堆積した泥の塊が隆起したものです。その中でもひときわそそり立つ火山岩の島があります。この島には階段が設けられ、上まで登ると小さなお社があります。地元の人たちが「明島さん」と呼ぶ海神を祭っています。大地のダイナミックなうねりを肌で感じるこ

の場所を、浦の人たちは聖地として大切にしてきました。神社や祠はこのような大地の神秘を感じる奇岩や見晴らしのよい丘に多く位置しています。

松江は1300年前の古事記や風土記の世界が今にいきる全国でも貴重なエリアです。ジオサイトとともに悠久の古代出雲を感じてみませんか？